【埼玉県】

大妻嵐山高等学校
キャリアスタディ同好会

高校生ボランティア・アワード2023

活動概要

●ストロー廃止施行期間①
• 給食のストローを使用している中学生を対象に、2週間のストロー廃止期間を設定
給食時にストローの利用を控えるよう、呼びかけた。

●中学生編 ストロー廃止試行期間②！
• ストロー廃止試行期間②では家から繰り返し使えるストローやコップを持ってきて飲むことを可とし、
2週間のストロー廃止期間を設定

●高校生編 使い捨てプラスチックについて考えよう！
• 第1週目：普段私たちが使っている使い捨てプラスチックを考える。
• 第2週目:第1週目で出した使い捨てプラスチックの削減案を考える。
• どちらも廊下に回答コーナーを設け、案を書き出してもらった。

●全校編 -マイボトル週間
・第一週目: 6日分のペットボトルゴミの数をカウント
・第二週目:全校生徒に呼びかけ、ペットボトル飲料の購入を控え、マイボトルの持参を奨励
一週目と同様に6日分に捨てられたペットボトルの数を数えた。

●ディスカッションイベント
•有志の参加を募り、給食のストローの在り方について考える
• 海洋プラスチックについて知っていることを出し合う

●埼北酪農業組合訪問
• 給食のストロー廃止について生産者側の意見を伺った
• 私たちの活動についても説明

●海プラ拾い
• 海に行って海洋プラスチック調査
• 拾った海洋プラスチックは、校内展示やアクセサリーにアップサイクル

●エコバッグ制作
• プラスチックゴミ削減の為に学校説明会で配布するバッグをエコバックに変更
• 啓蒙活動の一環として海の生き物をテーマにしてエコバッグのデザインを募集
• 大妻祭で来場者から投票を募り、デザイン決定

●海プラに関する映画鑑賞・上映会
• 映画鑑賞後、感想や自分達にも出来ることを話し合った
・製作者の方との対談
・全校に映画を上映し、海プラ問題への理解を深めたり、自分達にも出来ることを共有したりしてもらった

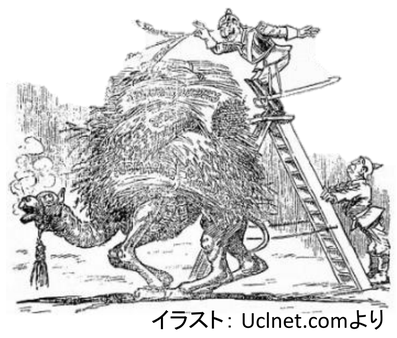
活動タイトル：The Last Straw

“the last straw”は、重荷を積んだラクダの背骨を折るのは最後に乗せた1本のわら=straw だ(『ジーニアス英和辞典』より)、ということわざから来た表現で、「我慢の限界」という意味がある

→今あなたが使うそのプラスチックストローが『最後のプラスチックストロー』であって欲しいという思いと、海の環境や海洋生物にとってこの問題はもう『我慢の限界』である、という英語の熟語をかけた

●活動の目的
学校給食のストローの必要性やプラスチックが海洋生物に与えている影響などを考え、それを全校生徒と共有することで、

①校内から出るプラスチックゴミ削減を目指し
②環境への関心を高める



イラスト：Uclnet.comより

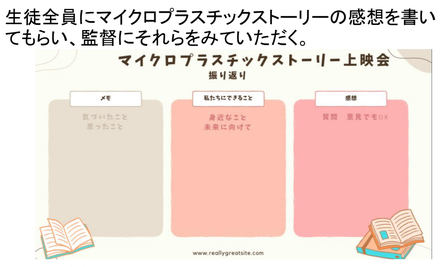
「海洋プラスチック問題を皆へ！世界へ！！」

海洋プラスチック問題解決へ！

映画鑑賞

「マイクロプラスチックストーリー」の上映
・全校生徒で海外の小学校で行なっていた海洋プラスチックに関する活動を見て、問題の現状と理解を深める
・海洋プラスチック問題に対して興味を持ってもらう

☆マイクロプラスチックストーリーを通じて
生徒全員にマイクロプラスチックストーリーの感想を書いてもらい、監督にそれらをみていただく。



実際の感想
→小学生の自分の思いを行動に移す行動力や団結力とそれに協力するニューヨークの人々の素晴らしさを感じた
→少しでもプラスチックを減らすために自分にできることを考えて削減に協力しようと思った。

☆監督との対談

みんなで行動を起こす時に大事なことは…
①Don't ではなくLet's →ダメな事を言うのではなく良いことを伝えていく
②Before After を推定→データを集めたらどう良くなるのかを皆に共有
③理由をしっかり伝える→「どうして」協力して欲しいかを明確にする
④周りの人を巻き込む → 大人や先生を巻き込んでいく！

取材

①「埼玉酪農農業協働組合」
・校内のストロー廃止試行期間やアンケート結果から疑問に思った事を取材
・給食牛乳の生産ラインについて学ぶ

☆ストロー廃止について
1. 直飲みできる形へ変形するのは？
→特別な機械を購入する必要がある=コスト
2. ストローの素材変更は？
→通常の4～5倍のコストを必要とする
3. ストローレスは？
→衛生問題発生の原因となってしまう

▸食の安全やコストなどの面から現状を変える事は難しいのが現状である

②「ウォータースタンド株式会社様との対談」
・校内でのペットボトル削減のための方法の一つとして「給水機の設置」について学ぶ
・様々なプラスチック削減案を知る

→海外の小学生が海洋問題に取り組むドキュメンタリー映画『マイクロプラスチックストーリー』を紹介される

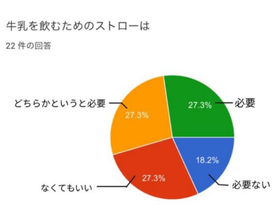
▸校内のペットボトル削減に向けての新しい取り組みや企業が行なっている取り組みを知る事ができた

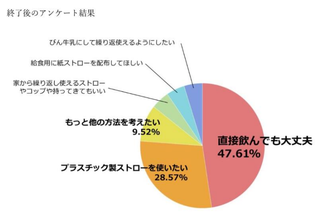
校内

①「STOP SINGLE USE PLASTIC」

プラスチック性のストローは実際必要なのか？？
→中学生の給食ストローを二週間控えるように呼びかけ
→ポスター・放送、中学生の先生に頼んで意識的に廃止

☆アンケート結果





▸多くの生徒がストローを使用しなくても牛乳を飲める事がわかった。
→本当にストローは必要なのか？？業者に話を聞くのはどうだろうか？

②「エコバック制作」

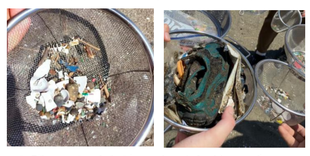
海洋プラスチックの一つであるレジ袋の使用を減らす
エコバッグのデザインを募集し、全校生徒にプラゴミについて考えて貰う機会にする
→学校説明会などで来客した方々に配布する予定

☆制作手段
エコバックの素材やデザインについて考える
↓
環境に優しく、プラスチックを含まない**コットン**を素材に
↓
エコバックのデザイン案を校内で募集
・海洋プラスチックに関するデザインであること
・ワンポイントでわかりやすいもの
↓
文化祭時に来校客・全校生徒に気に入ったデザインに投票してもらう
↓
昨年冬に完成　校内で発表！！！

校外

①「海洋プラスチック拾い・アクセサリー作り」
実際に日本の海にはどのくらいのプラスチックがあるのかを調べる
→葛西臨海公園の砂浜でザルなどを使い、マイクロプラスチックなどを集める。
→プラスチックゴミのアップサイクル＝海洋プラスチックを利用したアクセサリーを作る。

☆実際に拾ってみて
・事前の予想を遥かに超える量で、**マイクロプラスチックの他に靴やCDなどの大きなもの**まである。
・葛西臨海公園では”**人工芝**”の量がとても多い
・二時間ほどでも多くのゴミの回収ができた。



▸**実際に砂浜を篩にかけた後のゴミ**
貝殻などに混ざってマイクロプラスチックがある事がわかる。

▸**浅瀬に浮いていたゴミ**
片方のみの靴やCD、ペヤングのつつみなどがあった。
他にもペットボトルの蓋やプラスチック容器が転がっていた。

☆海洋プラスチックを利用したアクセサリー

作り方
①アイロンで溶かす
→何色かのペットボトルのキャップを切って‘アイロンで溶かし、固める。
（参考にしたサイト→https://sonohen.life/pp-remake-accessary-preciousplasticjapan/）
②マイクロプラスチックなどをレジンに流し込み、固める。

これらのアクセサリーは文化祭で配布。多くの方に渡しながらプラゴミの際の話などをした。

▸実際に浜辺に行く事で海洋プラスチックの多さを改めて実感する事ができた。
海洋プラスチックのアクセサリーはとても綺麗で実用的だった。このように別のものに活用する方法を開拓していくことができるのではないか。

学校全体で取り組む問題に…

海洋プラスチックをゼロにすることはもうできないかもしれません。しかし、これから先の海洋汚染を防ぐことはできます。

私たちは、一人でも多くの人に海洋プラスチックの問題について理解深めてもらうとともに、この大妻嵐山を一人一人が当事者意識をもってプラスチックゴミ削減活動へ取り組む学校にしたいと考えています。具体的には、ペットボトル飲料の購入数を減らし、マイボトルの持参を増やす、お弁当などのプラスチック容器を環境にやさしいものにする、普段からエコバックを持ち歩く、など、小さなことでも継続できることを私たちからもどんどん発信していきます。

また、学校にいるときだけでなく、日常のあらゆる場面で環境について配慮してほしいので、そのための意識改革を私たちキャリアスタディ同好会が積極的にサポートしていきたいと考えています。

キャリアスタディ同好会

SDGsや国際交流を中心に興味のあることをどんどん探求する同好会です。高校生メンバーを中心に中学生を交え、エルサルバドルの中高生と交流をしたり、環境問題について探求したりしています。
最近ではトルコ・シリア大地震の義援金を集め、東京ジャーミィを訪問。併せてイスラム文化についても学習してきました。